



碧南ロータリークラブ週報

第2994回例会 令和3年10月20日(水)

- 会長 新美 雅浩
- 幹事 栗津 康之
- 会場監督(SAA) 岡本 耕也

2021-2022 年度 国際ロータリーのテーマ

- 例会日 毎週水曜日 12:30
- 事務局 碧南商工会議所内
TEL<0566>41-1100
ホームページ: <http://www.hekinan-rc.jp>
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 例会場 碧南商工会議所ホール
〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町 90
FAX<0566>48-1100



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

- 会報委員 石川鋼勇・鈴木 洋・藤関孝典・小林 尚

●本日のお弁当

大正館

会 長 挨 拶

皆さん、改めまして、こんにちは。日曜日を境にしまして、季節の移り変わりが一気に進んだような気がします。今週は最高気温が 20 度を切るか切らないかぐらいの状態が毎日続いておりまして、1年間を通じて最も過ごしやすい季節を迎えてるんじゃないかなあとと思います。今後は寒さが増して寒暖差が大きくなって参りますので、ご自愛いただきたいと思います。



新美雅浩会長

本日は先程行いました点鐘について調べて参りましたので、少し触れてみたいと思います。日本のロータリークラブの例会は、点鐘で始まって点鐘で終わるといった形がどこのクラブでも行われているというのが一般的になっております。一方で世界各地のロータリークラブの例会では、点鐘はほとんどの国で行われていないと聞いております。ヨーロッパや東南アジアのロータリークラブの例会では、何時に始まって何時に終わるといったのがはっきりとしないことが多々あると聞いております。では、ロータリークラブ発祥の地のアメリカはどうかということなんですけれども、点鐘を行うということではなくて、裁判なんかでよく木槌を使ってコンコンとやりますけれども、そういった形で例会を始める時に使っているところもあれば、発言を制することに木槌を使っているところもあるということで、必ずしも例会を始めるということで鳴らすという慣習が一般的かということ、そうではないと聞いております。

点鐘が日本のロータリークラブでなぜ重要な位置付けになっているのかということなんですけれども、15 世紀前半から 17 世紀にかけて大航海時代というのがございまして、そこで慣習となっている点鐘がきっかけになっているそうです。大航海時代の船乗りは 4 時間毎の交代勤務で、恐らく時間を忠実に守るという意味合いで 30 分毎に点鐘することが慣習化されてい

たということだそうです。ロータリークラブはそれを見習って、例会が始まる 12 時 30 分に 1 回目の点鐘をしまして、遅くとも 13 時 30 分に 2 回目の点鐘をするということが我々の規定にも書かれていると思います。要するに点鐘をするそもそもの基本的な意味合いは何かということになるんですけれども、単に例会が始まる時に点鐘をして、例会が終わる時にもう一度点鐘をするということよりも、日頃から忙しいロータリアンの皆さんがこうして会場にお越しいただいて、例会にご参加いただけるということに対して敬意を表しまして、時間をきっちり守って例会を始め、時間を延長することなく例会を終えるという意味合いがあるのではないかなあというふうに私は考えております。それは正に日本のロータリアンの不易となっているのではないかなあと考えました。

以上で点鐘についてお伝え申し上げまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。
本日もどうぞよろしくお願い致します。

幹 事 報 告

幹事報告をさせていただきます。

- 先週も回ささせていただきました赤い羽根共同募金の募金箱を本日も回ささせていただきますので、ご協力をよろしくお願い致します。



栗津康之幹事

委 員 会 報 告

<出席奨励ニコボックス委員会>

総会員数 65 名 (内出席免除者 13 名の内出席者 9 名) 出席者 56 名	
出席対象者 56 / 61 名	出 席 率 91.80%
欠席者 9 名 (病欠者 1 名)	

<ニコボックス>

- 伊藤 正幸君 先週、西三河分区 9 クラブガバナー補佐訪問を終えました。黒田分区幹事に大変お世話になりました。ガバナー補佐杯、I. M とクラブの皆様にお世話になります。これからもよろしくお願い致します。
- 清澤 聡之君 10月17日、本年は、歩いて暮らせるまちづくり、寺まちウォーキングに変わって、番外編てらまち御朱印めぐりが無事開催されました。
- 山中 寛紀君 本日は卓話ならぬ雑話をさせていただきます。子守り歌にならない様、気をつけるつもりですが…宜しく願いします。
- 大竹 密貴君 銀婚式御祝、誠にありがとうございました。
- 鈴木 泰博君 先日、SDGs の教育支援関連で中部経済と中日新聞に掲載していただきました。

- 岡島 晋一君 先週は、卓話講師をつとめさせて頂きました。有難うございました。今週は、卓話講師紹介をさせて頂きます。
- 鈴木 洋君 10月17日にずっと延期になっていた一人娘の結婚式を無事開催することができました。周りの皆様に感謝です！！ 親を反面教師に幸せになってもらいたいです。
- 谷川 勝哉君 J E R A碧南火力発電所では、10月18日に操業30周年を迎えることができました。地元碧南市のみなさまには感謝しかございません。今後とも安定・安価な電力供給に努めます。

卓 話

「開業医からみた新型コロナウイルス感染症」

会員 山中寛紀君



山中寛紀君

失礼致します。今回、このテーマを岡島さんからいただいて、何を話そうかと非常に困りました。色んなところでこんな形の講演をやることがあるんですけども、皆さんに興味を持ってもらえるような内容はどのようなものなのかということを考えてきましたが、なかなか内容が決まらず、1週間ぐらい前からスライド作りを始めたということでございます。

皆さんの前でこういった卓話をさせて頂くのは、2011年2月2日にポリオについて少しお話をさせて頂いた時以来でありまして、またこうして卓話をさせて頂けることに心より感謝を申し上げます。

昨年1月当初は対岸の火事くらいにみていたこのウイルス感染はあっという間に世界中に拡散し、その後私たちの日常生活に多大な影響を及ぼしています。

新型コロナウイルスの正体、その感染力の脅威などについて会員の皆さまは、もう1年以上にわたり各種メディアを通じてご理解されていることと思います。そこで、感染症の専門医でもない私の口から何か為になるホットな話題を提供するなど、とてもおこがましいことであり、本日はこの約2年間私が一次医療の現場で、一開業医としてどのようにこの感染症に対峙してきたかをお伝えすることにしました。

ただし、一部内容については一般社会に公言することが出来ない点もあり、どうかそのことについてはご了承のほどお願いいたします。

この感染症はご存じのとおり2019年12月、中国国内（武漢）で原因不明の肺炎が多発しているとの報告が12月30日WHOになされたことで世界に知らされたと記憶していますが、私はその情報に触れたのは翌年2020年1月のテレビニュースでした。

「新型コロナウイルス」だって。コロナウイルスと言えば我々医師にとっては以前から一般の風邪のウイルスであり、そんなに重症化するような印象はないがと……。しかし、今回のコロナウイルスは勿論以前騒がれたSARS（サーズ）とも違い、とにかく酷い肺炎を来し死亡することがあるとのこと。武漢は完全にロックダウンされて現地の邦人を急ぎ帰国させるた

めに政府が動き始めているとのニュースも連日流れました。

この頃頭に浮かんだのは約 20 年前に SARS の感染が広がったころ、日本に到着する飛行機内で防護服を着た検疫官が機内に乗り込み、発熱者などいないかを検査して回っていた映像です。

しかし、今回はこのようなものものしい検疫はされなかったようです。ニュースによれば帰国者は全員バスで決められた宿泊施設に収容され、一定期間発熱などの症状がないことが確認された上で、検査をパスしたら帰宅が可能になるとの報道でした。でも中にはこの宿泊施設への入所を拒否して帰宅した人がいるとの報にも接し、本当に大丈夫だろうかと思いました。

そして、2月早々横浜港に寄港したダイヤモンドプリンセス号では大変な事態が勃発。連日この船内での感染拡大と、状態が悪化してもなかなか船外の医療機関に搬送してもらえないなどの状況がメディアを通じて伝わってきました。乗船内は当然大変なパニック状態であったと思いますが、PCR 検査が追いつかず感染者と非感染者の振り分けに手間取っていることや、船内のゾーニングが不十分であること等々の諸問題についても、民放各社のテレビ番組は報じていました。この PCR 検査、なんで民間の検査センターへ委託しないのか不思議でなりませんでした。また無事陰性が確認され一定期間船内で過ごした人が何と公共機関を利用して帰宅したことについては、日本の対応はちょっと甘いのではと感じた次第です。

そうこうするうち、日本人の海外旅行者が「コロナコロナ」と誹謗されたり、そう叫ぶ現地人を写メに撮った邦人が叩かれたりとかの報道も目にしました。イタリアでは感染が爆発して国全体が大変な状況に陥ったことや、WHO が早く世界に向けてパンデミック宣言を出すべきなのに遅いのではないかとの報道もされました。

我が国では1月16日に本邦1号目の新型コロナウイルス感染者が発表されましたが、その後の感染者は全国にパラパラと報告されるもののまだ感染爆発とまでは行きませんでした。しかしいずれ全国的に広がるであろうことは感染症の専門でない我々でも思っていたことです。それにつけても3月初旬から全国一斉に休校措置をとった国の方針には少々疑問も残りますし、春先全国民に配布された例のマスクにはどれ程の意味があったのか頭をかしげざるを得ません。その後の感染拡大について、3月から4月にかけて春休みのみならず職場の移動や大学進学等々で、この国にとっては大変なヒトの移動がある時期に合わせて感染拡大がおこることは目に見えており、事実ここから第1波がはじまったのです。

正直この先の第5波まで起こるであろうことは、自分のほぼ予測通りでしたが、今回のデルタ株による第5波がこれほど大きくなったことはまさに驚きでした。

このウイルスが常に一定期間すれば変異することはいまや誰もが知るところですが、まるで我々の思いを裏切るかのごとく、意思を持って変異しているの？と言いたくなるような変異が続いています。

まず初めは高齢者とリスクのある成人を重症化させて命の危険にさらし、一旦治まったかと思えば、今回のデルタ株のように若者や、リスクのある成年層の命までも奪うのみならず、子どもたちへの感染もしやすくなり、そこからまた大人に感染拡大（家庭内感染）するといった状態。これはまさにわれわれ地球人類の人口過密化を淘汰すべく意思を持って暴れている

ようにも思えてしまいます。

幸い奇跡的な早さでワクチンが開発されその接種も加速するばかりでなく、治療面でも抗体カクテル療法の確立や近い将来内服薬も手に入りそうとの明るい話題がこのところ出てきました。しかし、何を持ってしても大事なことは一人一人が感染対策をしっかりとすることです。色々な情報が飛び交う中ですが、どうか「真実かどうか」を自分なりに確認して行動することが大切ではないでしょうか？

私はロータリアンの端くれとして、自分にできることは何かしようと思い、4月には県から要請のあった、コロナ診療を実施の指定病院で不足する不織布マスクの寄贈に対して、院内で備蓄しているマスクを500枚ほど提供し、市民病院の感染対策へのクラウドファンディングに協力。県の呼びかけでのPCR検査への応援派遣に手を挙げ（これは結局なくなり藤田医大が一括引き受けました）、発熱外来の開設を実施、さらに結局5波が思いの外早く終息に向かったのでなくなりましたが、この9月下旬には県が開設していた入院待機ステーションへの派遣要請に手を挙げました。これらはすべて職業奉仕の一つとしてでもありますが、医の倫理とはそこにあると信じているからです。もうじき古希を迎える老体ではありますが、これから先この感染症との闘いはまだまだ続くと思う今日この頃です。

どうもご清聴いただきまして、ありがとうございました。

ロータリー奉仕デー「カーボンゼロを目指します！風船カズラ配布」(高浜RC合同)

令和3年10月24日(日) 9:00～ 於：明石公園



次回例会案内

令和3年11月3日（水）法定休日のため休会

令和3年11月10日（水）

クラブフォーラム「ロータリー財団プログラムについて」

地区資金推進委員会 委員長 佐野彰彦氏